都市デザイン・まちづくり特論（第２回）参考ノート

2008.4.25　真野

■近世都市計画から近代都市計画・ハウジングへ
バロック都市（16-18c）　オスマンのパリ計画
　大通りの幾何学的な配置／左右対称
　為政者の都市・・・生活者の都市（住まう都市）という視点の欠如
　都市設計上の合理性（図形的、美学的）・・・幾何学的達成
ルイス・マンフォード・・・バロック・プランの欠陥を指摘
　都市そのものが大街路の犠牲になる
　→例）商店は近隣住宅地に集まるのではなく、道路に沿って長く伸びる
　都市の構成要素である近隣地区への無関心／住宅建設の無視
パトリック・ゲデス・・・生態学の原理（Holism：全体論など）を都市研究に応用
　→専門家／学問の専門分化に対するゼネラリストとしての立場

■ 産業革命がもたらした都市の住環境悪化
コークス都市（マンフォード／ゲデス）

■住環境改善のための法制度の整備
イギリス　労働者階級用住宅に関する法律（1890）
オランダ　住宅法（1902）
　投機的低質住宅の排除／社会民主主義の理想的空間像の実現

■ オランダの都市計画とハウジングの連動
H.P.ベルラーヘ　・・カミロ・ジッテの理論をオランダに適用
　都市空間を規定するものとして住棟形式（ハウジング・ブロック）に注目した
　多様性の中の統一／広場と街路による統一の演出
　「すべての建物は、ある全体性を形成されるために統一されるべきである」
閉鎖型住棟配置による街区形成（19c 以降）
　２つの意味・・・効率的住宅投機（高密度）と美学的観点
　街区の角にも住棟が計画されるように

（参考文献）
ルイス・マンフォード著、生田勉訳、「都市の文化」、鹿島出版会、1974 年（原著 1938 年）
木原武一「ルイス・マンフォード」SD 選書 189、鹿島出版会、1984 年
ドナルド・I・グリンバーグ著、矢代真己訳、「オランダの都市と集住　多様性の中の統一 1900-40」、住まいの図書館出版局、1990